

年長組になつた幼児

及 川 ふ み

新入園児でこゝしばらく賑かな混雑の中に過した幼稚園も五月の聲をきくご餘程おちついて来る。小さい組の幼児たちはまだ幼稚園生活になれないで、附添をはなさなかつたり、おちついてお友達遊びが出来なかつたりしてゐるのは勿論であるし、年長組の幼児たちもこの新入の幼児たちの様子に氣がまられたり、或はそのお相手のお役をつまめるなごで多少の影響を受けてあはたゞしく過してしまふ。

一ヶ月近くのうちに年少組の人たちもそれ〴〵お友達もよく遊べる様になり、附添人のかげも園の内外から消えて、幼稚園はまたもこの様に幼児と保姆とだけでしんみりご遊べる様になつた。

一ヶ年の幼稚園生活を過した年長組の幼児達は、日頃羨しかつた年長組に進級した喜びで一ぱいである。自由遊びにも、いろ〴〵の製作にも、唱歌にも遊戯にも實にはりきつて愉快そうである。自然の季節によつて、草木の萌え出る若葉若芽の力強さにもおさらな様である。新年の始めに大人が何きはなしに、今年こそはご希望に満ちて心持を新

にするのと同様に、學年の始めは幼児たちの可愛らしい氣持にも一つの區切りのつく時である。

年少組の終り近くに、一人〴〵幼児のこごについてこの一ヶ年を省みた。先づ身體の健康について、比較的缺席の多かつた誰々、又知能方面に如何かと思はれるものはなかつたか、或は性格でも云はうか幼稚園の生活の状態が圓滑にゆかない幼児は如何等々考へられた。

健康が充分でなかつたものについては自分でも注意するのは勿論であつたが家庭の方へも幼稚園以上留意される様願ふ事でもあつた。たゞ幸なこごには自分たちのあづかる幼児達は身體検査を経て入園を許されてゐるだけに特別な虚弱幼児はないのである。

次に知能方面であるが年少組の間はつぎめてこの方面の調査をさけて見た。たゞその幼児全體としての觀察にこめておいた。

次に性格のこごであるがこれは知能検査の様に時々一人づゝの幼児についてこごさらに検査をしなくても、いつも

幼児と一緒に遊んで居れば自然觀察が出来るものである。これについては健康の點、知能の點は異りひたすらに幼稚園生活のうちに善導すべきであるとして自分の至らないのをいつも責めたのであつた。

幼稚園での生活状態がなか／＼圓滿に出来ないものについては心づき次第何か導くべきは云ふまでもない。皆がきちんとしてゐる間にも一人だけはそれが出来ない。お友達の間同志に何か小さい出来事がおきたにしても、こゝ／＼しく取りたて、お友達にも告げますれば、先生にもいそぎたて、告げ口もする。こんな風でいつも全體の生活の上／＼の波紋を生んでゆく。一幼児にしても、つまらない事であると同時に、他の友達にもそんなに面白くない影響になるのは云ふまでもない。たゞこんな例は一二であるが言葉で云ひあらはされない様ないろ／＼の場合が澤山にある。身體の健康のことは家庭の人にも協力のせい／＼の方法もあり又知能の發育のや／＼おかれてゐる様な場合も、ある程度まで順々努力すれば比較的この缺點を補ふ事はむづかしい事でもない。たゞその幼児全體としての性格の變つたものゝ指導は六つかしい問題であつて、しかも家庭の協力をまつさいふよりも、むしろ我々のみがより多くしなければならぬものである。

年少組の終り頃には小さい幼児たちに、年長組になる希

望みにも自重をもいつも話した事であつた。四月も未だくになり年長組になつて数日後特にこの自重が一幼児に著しく見えてきた。いつも何かの折に際だつて見えた幼児、いつも存在のはつきりしてゐたものが目立たなくなつた。周圍のものにさ／＼一人だけ氣づかない様になつた。小さい幼児の自尊心にもさ／＼嬉しくなつて一緒に切り紙するその幼児に靜かに「誰々さんあなたは大きい組になつてほんまによい子になりました」さ心からほめた。にこ／＼した顔で大きくうなづいた。

新刊 社會教育學

朝原 梅 一著

發行所 高陽書院 東京神田小川町三ノ八
定 價 一圓八十錢

著者朝原梅一氏は人も知る如く、東京府社會事業主事として、長い間社會事業の實際に携はられて居られる方であるだけに、本書は、教育哲學の分野から説かれたる從來の所謂社會教育學とは全く趣を異にし、どこまでも社會事業に立脚したる社會教育學である。書中第二編成人教育機關、第三編幼児及少年の社會教育施設、第四編幼児及少年の收容教育施設の項などは、幼稚園託兒所關係者の必讀すべきものであると思ふ。大方の御購讀を切に御奨めする次第である。

(編輯部)